

2026年1月15日

イオン株式会社

イオンは、株主共同の利益に資する経営を求めます

イオンは、株式会社クスリのアオキホールディングスの経営に対し、企業としての社会的責任及び透明性のある経営という観点から懸念を持っています。

アオキは、2025年12月25日、「東京証券取引所スタンダード市場への市場区分変更申請及び名古屋証券取引所メイン市場への新規上場申請」を公表しました。

2024年に、大量のストックオプションが行使され、創業家の持株比率は約27%から40%に増大しました。それに伴い、アオキの流通株式比率が大きく低下しました。スタンダード市場に移行することによって、創業家の持株比率を維持したままアオキは上場を継続することができます。

そもそも公器たる上場企業は、株主全体の利益実現に対する責任を負っています。ストックオプションの行使によりアオキの創業家の持株比率を上げたうえで、プライム市場が求める流通株式比率を回復する努力を図ることなく、スタンダード市場に移行することは、一般株主の利益より創業家の支配権の強化を優先したものであり、少数株主の利益を害しています。

イオンは、2003年より資本業務提携に基づきアオキ株式を約10%保有していましたが、創業家による大量のストックオプション行使に伴う希薄化により、イオンの保有比率が低下しました。イオンは保有比率を回復するため、市場で株を0.28%追加取得したものであります。

したがって、イオンが同意なくアオキ株式を買い増したことが資本業務提携解消の要因の一つとする報道がありますが、そのような事実はございません。

イオンは、これらの懸念から、アオキに対する取締役の派遣を取りやめることといたしました。アオキの株主として、アオキの経営陣に対し、株主共同の利益に資する経営を求めます。